

ご挨拶

「すべてに革新、すべてにグローバル」をテーマに 3S(Simple, Slim, Speed-up)の実現を目指します

2012年はまさに変化の年でありました。国内経済については、前半、東日本大震災やタイの大洪水から立ち直りをみせ始めましたが、後半には、日中関係の悪化等の影響もあり成長は鈍化しました。海外に目を向けますと、主要各国で指導者が代わり、経済情勢においては、欧州では債務危機からの脱出がかなわず信用不安が継続する中、これまで世界の景気を牽引してきた中国の成長が鈍化。一方で、中国経済の失速に伴い、東南アジア市場が注目を集め、アメリカではシェールガス開発など景気回復への兆しがみられました。

このような不透明で混沌とした環境下において、2013年は、欧州の信用不安の行方や中国経済の動向が懸念され、また国内においては、主要産業の海外移転に伴う国内生産の減少など、引き続き厳しい状況が予想されます。そして今後、東南アジア市場の拡大、アメリカの回復、日本の国土強靱計画等によりビジネス環境はさらに変化していきます。

変化、流動化する世界情勢に対応する為、当社では「すべてに革新、すべてにグローバル」をテーマに、3つのS=3S(Simple, Slim, Speed-up)を掲げ、業務のシンプル化、組織のスリム化、経営のスピードアップに取り組み、変化に迅速に対応できる機敏でスリムな体制の構築を目指しグローバルな事業活動を強化して参る所存です。

そのためには、グローバルに活躍できる人材の育成・登用を行い、グローバルマネジメント体制を確立し、新規素材及び部品事業の創出を通じて、新規事業・新製品による国内外事業の強化を図ります。特に海外においては、北米・東南アジアにR&Dセンターを設置し、開発スピードの向上を図り、新興国を含む海外成長市場に向けた事業の拡大と再編を実施します。また、環境変化に対応可能な生産体制を構築し、自動化の推進を行いグローバルスタンダードな生産システムの確立に注力します。

当社が日本で初めてウレタン技術を導入して以来、当社のウレタン事業の歴史は60年を迎えようとしております。また東南アジアにおいても長い事業の歴史があります。当社の強みである発泡品事業においては、グローバルNo. 1メーカーを目指し、海外においては、長年に亘り築いて参りました海外企業との協力関係を活かし真のグローバル体制の構築に向けて邁進する所存でございます。

皆様方にはこの機会をお借りしまして、平素のご支援とご理解に心よりお礼申し上げますと共に、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 翁 豊彦



特集1

海外でのCSR活動

～イノアックグローバルCSRマップ～

1933年に井上護謨製造所(現井上護謨工業(株))がIRCブランドのタイヤチューブを輸出開始。これがイノアックグループと海外が初めてかかわりをもった出来事です。以来イノアックグループでは現地の習慣を理解し、現地の人々とともに発展することを重視しながら、海外の様々な国や地域とかかわりを深めてきました。海外と初めてかかわりをもって2013年で80年。これを機会に海外のイノアックグループで行われている社会・地域貢献活動を紹介합니다。

アメリカ

INTERTEC SYSTEMS, LLC(ITS-USA)

ITSは約16年前にコミュニティへの貢献として、障がいのある子供たちのためデイケアサービス、教育や両親へのアドバイスをを行う非営利団体のペンリクトンセンターのサポートを開始しました。ペンリクトンセンターは米国の大きな福祉団体や、政府からの支援を受けておらず、地域の企業や個人からのサポートで活動しているため、サポート先として選びました。ITSでは毎週金曜日のブルーローズデーに従業員それぞれが\$3、もしくは四半期あたり\$35を一括払いで寄付することにより、業務時間帯にブルーローズを着用できる特権が与えられます。また、ITSの年中行事としてゴルフ大会があり、そこでシチューを販売し、その利益も寄付しています。クリスマスには同センターのチャリティーディナーへ数名が出席し、チャリティーツリーのスポンサーもしています。チャリティーツリーには、クリスマスツリーに子供たちの個人名の入ったカードが吊るされており、カードにはプレゼントの衣服やおもちゃのリストが書かれています。ITSには年間を通してペンリクトンセンターから折々感謝のレターを頂いています。

フィリピン

INOAC PHILIPPINES CORPORATION(IPC)

IPCの環境マネジメントシステムの一環として植樹活動を実施しました。6月26日朝8時から植樹活動を行い、イノアックからは、24名が参加しました。現地のパートナーグループの社員も加わり、10時までに合計100本の木を植樹し、グループ会社同士の交流にもなって非常に有意義な活動となりました。またそのほかにも赤十字社との連携で、現地パートナー会社のトレーニングルームで献血を実施しています。従業員のみなさんは社会貢献の意識が非常に高く、皆さん自らの意志で参加していました。

献血活動▶



▲ 植樹活動

中国

上海井上高分子制品有限公司(SVI)

公安局と一緒に交通指導を行っています。工場の自家用車やバイク通勤者が増え、出退勤時の工場周辺道路の混雑が目立つようになりました。そこでSVIでは交通安全への取り組みの一環として2012年7月より公安局と一緒に交通指導活動を始めました。副総経理を隊長に10名で「交通安全隊」を組織し、毎月最終週の金曜日、朝9時から10時に工場近郊の大きな交差点にて、プレートを手を持ちドライバーに赤信号の切り替わりの注意を促す活動を行っています。



▲ 工場付近にて交通安全活動

ベトナム

INOAC VIETNAM CO.,Ltd.(IVC)

IVCでは国立ベトナム大学ハノイ校の学生5名が2012年6月25日から7月19日までの25日間、インターンシップを行いました。製造部門別チームを編成し、現地現物で不良、ロス低減手法の実習を行いました。IVCスタッフが社会人の先輩として好意的に指導する中、学生より積極的に提案が出されました。学生自身の提案の効果を実感することで、製造部門の改善に興味を持ってもらうことができました。また学校に終了証書を届けた際には、大変喜んで頂けました。今後も活動を継続する予定です。

インターンシップ参加学生▶



タイ

THAI INOAC MOLD CO., LTD.(TIM)



▲小学生とTIMのメンバー

タイにあるイノアック合弁会社のBFCグループでは、献血などの社会貢献活動を古くから実施していました。2008年8月より地域、郡部にも活動の幅を広げ、TIM単独で郡部小学校への貢献活動を始めました。現在は2年に1度活動を行っており、現在までに2008年、2010年、2012年と3回行っています。2012年2月には従業員の9割が参加し、小学校の遊具、トイレなどの施設の修繕、学内の柵の製作設置を行いました。この活動は本来、2011年秋に行う予定でしたが、タイの大洪水のため2012年に行われました。



▲小学校にて修繕活動

INOAC INDUSTRIES (THAILAND) CO.,LTD.(IIT)

CSRの研修をきっかけとして、2010年より隔月で地域貢献活動を行っています。2012年カビンプリ工業団地付近にて小規模な洪水被害が発生した際、飲料水・食料の配布と清掃活動を行いました。この地域には従業員の住居もあり、アユタヤ付近の大洪水の教訓もあったため、班長以上の有志で掃除・購入・配布のグループを構成、清掃活動では20名程が洪水で流れてきたごみ集めをし、食料を約100セット配布しました。この活動は住民の方より感謝され、今後も近隣ボランティア活動を推進する予定です。

消火活動▼

BANGKOK FOAM CO., LTD.(BFC)

■消火活動

BFCでは、工場周辺で火災事故があった場合を想定し、消防車を購入しています。この消防車は工場の火災だけでなく、近隣の火災の消火活動を行っており、2012年の間だけでも近隣の火災に10回出動し、地域の消火活動に貢献しています。また緊急の消火活動に備え、年に1度、避難訓練や応急処置訓練だけでなく、化学材料やガス爆発に対する社内訓練と、社外のターンタワン学校にて基本的な訓練を行っています。



▲タイの「母の日活動」

■バンナイポール学校との活動

仏教の国のタイでは、「カオ パン サー」文化日という、3か月お坊さんがお寺以外の宿泊が禁止になる時期があり、その際宿泊に必要なキャンドルや必需品などを寄付する習慣があります。BFCではバンナイポール学校と一緒にバンボン寺にランプや生活用品、お金などを寄付しています。

8月12日はタイの女王様の誕生日で、母の日でもあります。BFCではバンナイポール学校の子供たちに玩具や制服を寄付しています。タイでも日本と同様、この日に感謝の気持ちをこめて子供から母親へプレゼントを贈りますが、この辺りの家庭は裕福ではないことが多いため、間接的に負担を減らすことができると思い、この活動を行っています。またこの日は子供たちにお昼ご飯やお菓子を提供し、子供たちがそれを母親に渡すなど感謝を表すことのお手伝いをしています。



◀バンボン寺 仏教部文化会 (キャンドル祭り)



◀◀バンボン工場周りの植樹



◀バンボン近辺の子供のケアセンターへの食事の寄付



近隣住民も使用する工場の裏側のフェンスのペンキ塗り



東日本大震災からの 復興支援活動

～イノアックだからできること～

東日本大震災発生より2年が過ぎ、復興活動が進みだしています。イノアックでは、震災発生当時は水や食料、義援金などの支援を行っていましたが、震災後2年が経過し、震災に対する支援のあり方も変化していると考えています。一時的な支援ではなく、被災地の迅速な復興のための支援が必要な今、イノアックの製品が被災地復興のために使用された実例を担当者にお話を伺い、ご紹介します。



サーマックス

東北で活動する営業担当者にお話を伺いました



住環境本部 建材部
遠藤 正之さん

Q.1 イノアックの製品が復興に役立っているとお聞きしましたがどのような場所に製品が使用されているのでしょうか？

A プール天井に採用されています。

Q.2 どのような点が採用の決め手になりましたか？

A サーマックスは他の製品と比べて、軽量で断熱に優れています。また塩素系の薬品に対して耐薬品性もあります。

Q.3 採用に至るまでに苦労した点を教えてください。

A 地震により天井が落下した公共施設は、安全第一で天井全体を撤去して、屋根がむき出しの状況が続きました。現在は安全第一だけでなく、地球環境を考慮した改修・補修工事が進んでいます。サーマックスは、軽量で安全、また高性能断熱で環境に配慮した商品として、各官庁に信頼ある商品として理解して頂いていたのですが、震災直後の一年間は安全だけが優先され、営業展開において苦労しました。

Q.4 サーマックスを採用して頂いたお客さまからの反響はいかがでしたか？

A プール天井の実績は、12年以上経過したものもありますが、湿気が高い中でのご使用でも、張り替える事なく、現在も施工時のまま使用しており、お客様より好評を得ています。

Q.5 今後はどのような展開を考えていますか？

A 国内プールのシェアはかなり高いのですが、市場としては小さい事もあり、新規で食品加工場天井・給食センター天井材として展開しています。

Q.6 今までに経験したことのない震災の被害修復ということで、改めてイノアック製品が地域に役立っていると実感したことがあれば、詳しく教えてください。

A 東日本大震災において、サーマックスE1天井は落下が一つも無く、お客様からお礼の言葉を頂いています。他社製品が地震により落下した中、サーマックスで仕上げた天井は、震度6の地震があった宮城県でも一枚も落下する事がありませんでした。

3.11の震災で
崩れ落ちた天井 ▶



登米市(宮城県)体育館震災後でも
天井は1枚も落下せず(サーマックス使用) ▶



(株)イノアック住環境
東北統括営業所
藤田 雅行さん

Q.1 イノアックの製品が復興に役に立っていると聞きましたが、どの製品がどのような場所に使用されているのでしょうか？

A 【アイポリガード】
凍結防止管としての機能を持つアイポリガードが、宮城県気仙沼市など津波被害エリアで、本管および応急仮設配管に使用されています。

A 【水道用ポリエチレン溶剤浸透防止被覆管】
住宅の灯油タンクが地震で倒れ、灯油が地下の水道管(ポリエチレン管)に浸透し、水道水の異臭が発生していました。その対策として水道用ポリエチレン溶剤浸透防止管が使用されています。

Q.2 どのような点が採用の決め手になりましたか？

A 【アイポリガード】
アイポリガードが採用の決め手となったのは、軽量、凍結防止機能、露出配管可能である点です。また、長尺で配管できるので施工時間の短縮にも効果がありました。

A 【水道用ポリエチレン溶剤浸透防止被覆管】
水道用ポリエチレン溶剤浸透防止被覆管は、他社にはない溶剤浸透防止機能が採用の決め手となりました。これにより油臭が水道水に浸透することがなくなりました。

Q.3 採用に至るまでに苦労した点を教えてください。

A アイポリガードですが、製品採用後に複数の大型案件を同時進行で進めなければならない中で計画変更、海外調達、現場施工など何十回もの役所、設計コンサルタント、現場業者等の関係各所との調整に苦労しました。

Q.4 被災地での施行はどんな点が大変でしたか？

A 被災エリアで普段よりいろいろな制約が多く、厳しい条件下での施工でしたが復旧工事を無事完了できました。製品の良さ、施工性の良さなど、お褒め戴き、採用エリアの拡大につながりました。

Q.5 今後はどのような展開を考えていますか？

A 仮復興工事に採用されましたが、現在は本復興計画にも製品が採用されるように活動しています。お客様の生活をより安全性の高いものにする為に、災害に強いインフラの供給を行います。

Q.6 今までに経験したことのない震災の被害の修復ということで、改めてイノアック製品の優れた点が地域に役立っていると実感したことがあれば、詳しく教えてください。

A 多くのイノアック製品が、人々の生活にとって大切な水などライフラインに大きく関わっていることを再認識しました。



水道用ポリエチレン溶剤浸透防止被覆管 ▲

▼ アイポリガード 橋梁添架管



社員の声

東北イノアック
渡辺 利友さん

イノアックの製品が復旧・復興支援に貢献できたことを誇りに思います。紙面の都合上、ほんの一部のご紹介となりました。すでに震災から2年過ぎましたが、まだ手つかず状態の所もたくさんあります。復興のステージに合わせ、必要なものがどんどん変化していきます。今後もタイムリーな製品提案ができるように活動していきたいと思っています。